

IV. スポーツ・健康科学プログラム

1. 設置の趣旨と教育の目的

少子高齢化社会の到来のみならず、高度テクノロジー化と IT 化にともない、心身の健康の維持増進がこれまで以上に重要になっています。そして、スポーツ・健康科学の発展と普及は、21 世紀の日本社会にとって不可欠なものとなっています。今日我が国の健康問題の多くは、運動不足や情報横溢と密接にかかわるライフスタイルの変化や生活文化に起因しています。そのような中で、特にスポーツや運動活動に求められる期待値は大きく、それらを取り入れた日常生活の質的向上の取り組みが随所で見られるようになっていきます。近年、地域コミュニティにおけるスポーツ基盤の整備や生涯スポーツの機会の提供が進んでいます。他方、ボーダーレス化や商業化が急速に進み、レジャー・イベント・プロスポーツ・メディア等のスポーツ関連領域は巨大な市場を形成しています。

このことは同時に、スポーツを媒介とした国際交流や国際貢献の可能性がさらに大きくなっていることを意味します。

このような状況を背景に、「スポーツ・健康科学プログラム」は学際的な性格を持つスポーツ科学と健康科学を基盤とし、スポーツや健康にまつわる問題を健康・医療・文化・ビジネス・サービス・行政等との関連の中で多面的かつ総合的に考察し、この分野に寄与できる人材の育成を目的としています。

本プログラムでは、従来の体育ないしはスポーツ講義・実技という枠組みではない多様なアプローチが可能になり、総合的かつ体系的な能力が養成されます。つまり、各学部におけるそれぞれの専門科目を履修しながら、当プログラムのスポーツ・健康科学の領域の中で各人が興味をもつ分野を深めていくことができます。そこでは、本プログラム独自に開講する演習科目を通じて専門的な研究を行います。

スポーツや健康に関わる社会的ニーズの増大と多様化によって、それに対応できる資質を備えた人材が今後さらに求められます。これまで教員の養成を主眼としてきたいわゆる教育・体育系学部とは異なり、本プログラムが社会の幅広い領域にマルチスペシャリストを送り出すことの意義は大きいのです。

2. 2024 年度演習科目担当者および履修者数

連番	氏名	所属学部	FLP 演習A	FLP 演習B	FLP 演習C	総計	実施形態
1	浦谷 郁子	法	1	－	－	1	単独(A)
2	宮崎 伸一	法	－	1	2	3	単独(B・C)
3	村井 剛	法	9	5	1	15	単独(A・B・C)
4	青木 清隆	経済	2	5	－	7	単独(A・B)
5	市場 俊之	商	1	－	－	1	単独(A)
6	潮 清孝	商	2	1	1	4	合併(A・B・C)
7	阿部 太輔	理工	－	－	2	2	単独(C)
8	向山 昌利	文	2	－	－	2	単独(A)
9	小林 勉	総合政策	9	10	9	28	単独(A・B・C)
合 計			26	22	15	63	

3. プログラムスケジュール

5 月 第 1 回部門授業担当者委員会

7 月 ガイダンス（一年次生向け）
第 2 回部門授業担当者委員会

11 月 2025 年度募集に伴う選考試験
第 3 回部門授業担当者委員会

12 月 学内活動（期末成果報告会）
プログラム合同企画

3 月 FLP 修了発表
FLP 修了証書授与

4. プログラムの活動

期末成果報告会

実施日： 2024年12月14日(土)10:30～
実施場所： 中央大学 多摩キャンパス 3353 教室
実施内容： 各ゼミによる年度活動報告

プログラム合同企画

実施日： 2024年12月14日(土)13:00～
実施場所： 中央大学大学史資料館 企画展示室
実施内容： 「中央大学大学史資料館 第1回企画展『中大とスポーツ―過去・現在・未来―』」の見学

5. これまでの履修生の主な就職・進学先実績

電通、読売広告社、読売新聞社、TBS テレビ、J リーグフォト、日刊スポーツ新聞西日本、ゴールドウィン、ランナーズ、琉球スポーツキングダム、川崎フロンターレ、アスリートクラブ熊本（ロアッソ熊本）、楽天野球団、電通ライブ、セレスポ、山形新聞社、三菱 UFJ 銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、りそなホールディングス、静岡銀行、山梨中央銀行、足利銀行、きらぼし銀行、横浜銀行、清水銀行、あおぞら銀行、川崎信用金庫、大和証券、日産証券、商工組合中央金庫、住友生命、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン、AIG 損害保険、明治安田生命保険相互会社、アフラック生命保険、丸紅、双日、メタルワン、稲畑産業、住友商事グローバルメタルズ、JFE 商事、日立製作所、富士重工、小松製作所、村田製作所、神戸製鋼所、王子ホールディングス、大林組、奥村組、大和ハウス工業、オープンハウスグループ、麒麟ビール、サッポロビール、ヤクルト本社、ロッテ、日本 IBM、富士通、フォーカスシステムズ、NEC ソリューションイノベータ、富士ゼロックス、リコージャパン、本田技研工業、SUBARU、ヤマト運輸、佐川急便、日本通運、東日本旅客鉄道（JR 東日本）、京王電鉄、東海旅客鉄道（JR 東海）、西武鉄道、ジェイアール東海パッセンジャーズ、近畿日本ツーリスト、JTB コーポレートセールス、JTB ビジネストラベルソリューションズ、星野リゾート、東京テアトル、KDDI、NTT コミュニケーションズ、東日本電信電話（NTT 東日本）、リクルート、船井総合研究所、野村総合研究所、リクルートコミュニケーションズ、インテージ、コクヨ、テルモ、セブン・イレブン・ジャパン、エン・ジャパン、三井住友ファイナンス&リース、ジェーシービー（JCB）日本公文教育研究会、全国農業（協組連）、休暇村協会、国民健康保険中央会、東北電力、警視庁、皇宮警察本部、国家・地方公務員（財務省、厚生労働省、農林水産省、国税庁、東京都庁、静岡県庁、多摩市役所など）、立川市社会福祉協議会、学校法人法政大学、国立大学法人一橋大学、中央大学（法科大学院）、東京学芸大学大学院、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科、首都大学東京大学院人文科学研究科社会行動学専攻など

6. 演習教育活動

(1) 浦谷 郁子 (法学部・助教)

FLP演習A

<テーマ>

「スポーツの疑問を考える」

<授業の概要>

内容としては「スポーツ哲学」の観点からスポーツの「なぜ」を見つけ、深く掘り下げることになる。習得方法は、気になる情報を収集し、その情報を丁寧に読解、分析することになる。その他、調べたいものによっては、アンケートなどを用いて「なぜ」を掘り下げる。

<活動内容>

本ゼミは、スポーツ哲学の研究領域を用いて学びを深めた。学びの方法は文献研究になるため、調査や課外活動を実施していない。学びの中心である文献は、学びを深めたいテーマに沿って論文、新聞を収集した。収集した文献は、秋学期に1つずつ丁寧に読解を進めた。文献読解した資料は今学期中に分類分けし、次年度、最も興味のある分類の学びを深めることになっている。

このように本ゼミは、文献と丁寧に向き合うことで「新たな」見解を導き出そうとしている。さらに、本ゼミの体制は少人数のため、個人にあった「気になるテーマ」を見つけ、その週毎に進めたい方向を決め直してきた。個人に合った学びのスピードが、学びの深め方、面白さを感じてもらえればと思い進めた。

今後、今年度、収集した文献に加え、新たな文献を読み進めつつ、少しずつ考察を書く作業に入りたいと考えている。

(2) 宮崎 伸一 (法学部・教授)

FLP演習B

<テーマ>

障がい者の健康を日常生活・社会生活の観点から研究する

<授業の概要>

障がい者が社会で生きていくための支援の形は様々あるが、障がい者自身が積極的に活動することで、自らの可能性に気づくこともある。また、障がい者が活動することによって、社会が障がい者の特性を知り、支援の仕方に気づくこともある。本年はスポーツをはじめとする活動団体の見学を行い、障がい者の社会活動の実態を知ることが目的とする。

<活動内容>

障がい者の健康、支援をスポーツおよび社会的活動の観点から捉えるため、今年度は障がい者が社会とどのようなつながりを持っているのかをスポーツおよび社会活動を切り口として現状把握をおこなった。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B

実施日：2024年6月8日(土)

講演者：柳田 裕之 氏 (株式会社アクセシビューティー)

演 題：障がい者への美容支援

実施施設：オンライン講演

実施内容：障がい者のための美容スクールや、障がい者施設への出張美容施術活動の現状をヒアリングした。

成 果：障がい者が美容に関心を持ち、美容関連の活動を行うことは当然であり、そのことに気づかせてくれる活動を行っていることを知ることができた。

対象演習：B・C

実施日：2024年9月10日(火)～2024年9月12日(木)

実施都市：沖縄県浦添市

実施場所：一般社団法人琉球スポーツサポート事務室、および近隣スポーツ施設

実施内容：一般社団法人琉球スポーツサポートの活動うち、卓球、バドミントン、E スポーツ活動を視察し、許可を得た利用者からのヒアリングを行った。

成 果：スポーツ活動が生活の一部として定着している利用者もあり、そのような方は精神的にも安定していることが分かった。

対象演習：B

実施日：2024年11月16日(土)

実施都市：東京都港区

実施場所：東京インターナショナルスクール

実施内容：実施団体のNPO法人ピジョンは、昨年度ヒアリングを行った団体である。主に発達障がい・知的障がいを持つ小中学生のスポーツ活動を行っている。今年度はゼミ生自身がボランティアとして活動をした。

成 果：ゼミ生が参加した日は東京インターナショナルスクールの生徒もボランティアとして参加していて、言葉以外でもコミュニケーションが十分可能であることを知ることができた。

F L P 演習 C

<テーマ>

学習およびスポーツパフォーマンスを向上させるために、自分に合った、持続可能な能力開発法を見つける。

<授業の概要>

1 日を最高のパフォーマンスの中で過ごすために、睡眠・食事・運動・瞑想に着目し、それらをどのように活用していけばよいのかを、科学的なエビデンスをもとに各自が試行錯誤をしながら見つけ出していく。

<活動内容>

本年度は食事、特に朝食に着目して演習を行った。

●方法

「朝食抜き」「軽い量の朝食」「普通量の朝食」を摂る生活をそれぞれ 2 週間ずつ続ける。この間は、空腹度チェックを起床時、11 時、15 時、19 時、就寝前の 5 ポイントで行った。空腹度は「満腹 (1 点)」～「とても空いた (5 点)」と点数化した。また、1 日の摂取カロリーを「あすけん」というアプリで求め、起床時の体重を毎朝測定した。

●結果

空腹度は 11 時で最も差が大きかった (朝食抜き > 少量、普通量)。また空腹度は、普通量を摂取した場合が最も安定していた。平均摂取カロリーは、朝食抜き > 少量 > 普通量の順であった。体重の変化は 3 通りともほとんど変化なかった。

●結論

朝食を普通量とっても体重の増加には結びつかず、空腹感も一定であった。望ましい食生活である。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習 : B・C

実施日 : 2024 年 9 月 10 日 (火) ~ 2024 年 9 月 12 日 (木)

実施都市 : 沖縄県浦添市

実施場所 : 一般社団法人琉球スポーツサポート事務室、および近隣スポーツ施設

実施内容 : 一般社団法人琉球スポーツサポートの活動うち、卓球、バドミントン、E スポーツ活動を視察し、許可を得た利用者からのヒアリングを行った。

成 果 : スポーツ活動が生活の一部として定着している利用者もあり、そのような方は精神的にも安定していることが分かった。

(3) 村井 剛 (法学部・教授)

FLP演習A

<テーマ>

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る

<授業の概要>

スポーツの技能と学習、心理的效果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理について、文献や実態を確認しながら理解を進めた。

中央大学のスポーツ振興の一環と競技支援の役割を担うことも狙って、体育連盟の運動部のプロモーション方策の検討と、モチベーションビデオの制作を行った。

<活動内容>

メインの活動として、春学期はスポーツに関する心理、認知的な側面に関する文献の情報収集や実態の把握を中心に展開した。

秋学期に入り、B・C生がメインに活動している調査、研究対象の見学、手伝い、データ収集、データ分析作業も一部担った。

B・C生と共に、三大駅伝を観戦し、身近に体育連盟を感じつつ、ゼミを通して部へどのように貢献していくかを考えるきっかけを得た。

特にモチベーションビデオ制作過程においては、アンケート調査によってニーズをヒアリングしたり、競技スポーツ現場との密なつながりも形作ることができたため、B生以降の活動への動機付けとして、またゼミ活動を自分事として取り組むための責任感も生むきっかけづくりのできた1年間であったと感じている。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2024年9月1日（日）

実施都市：長野県上田市

実施場所：菅平高原

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年10月19日（土）

実施都市：東京都立川市

実施場所：昭和記念公園

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、箱根駅伝予選会にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

FLP演習B・C

<テーマ>

スポーツ心理（認知・行動）部分を知る

<授業の概要>

スポーツの技能と学習、心理的効果、心理的適応、動機づけ（モチベーション）、競技心理について、文献や実態を確認しながら理解を進めた。スポーツ愛好者、競技者、指導者、それぞれの立場からスポーツ心理を学んでいけるよう授業展開は配慮した。また、中央大学のスポーツ振興を目的として、体育連盟の運動部のプロモーション方策の検討と、箱根駅伝支援の一環でモチベーションビデオを制作した。

<活動内容>

メイン活動としてB生は中大杯に関するイベント企画立案、当日運営に関する活動を実施した。

事前に測定した現役中大アスリートの記録と中大杯当日に測定した小中学生の各種目の記録を比較してもらうことでスポーツへの意欲を高めることを目的とした。

C生は中央大学学友会体育連盟に関する、スポーツ振興に関する質問紙調査を実施した。回答はグーグルフォームを用いたアンケート形式で実施した。

実施日：2024年12月7日（土）、8日（日）中央大学多摩キャンパス各スポーツ会場

・参加部活

- ・男子バスケットボール部
- ・硬式野球部
- ・準硬式野球部
- ・男子バレーボール部
- ・サッカー部

・種目

- ・反復横跳び
- ・20m走
- ・垂直跳び
- ・立ち幅跳び

記録会の様子



男子バレーボール部の記録計測の様子

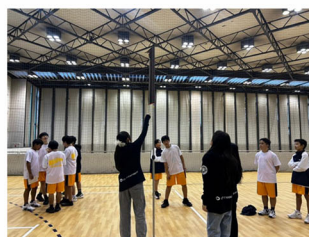


バスケット部の記録計測の様子

中大杯の様子



立ち幅跳びの記録



垂直跳びの記録



20m走の記録

「中大スポーツ振興」 についての意識調査

調査対象： 中央大学所属の大学生、大学院生

調査期間：2024 年 7 月～11 月

◎回答人数：659 人（内訳）体育連盟所属者 214 名 体育連盟非所属者 445 名

Q:大学スポーツに求める施策は？
(体育連盟無所属者の回答を抜粋)

1 位 観戦チケットが無料で貰える (176票)

2 位 知り合いが試合に出ている (122票)

3 位 授業が配慮されるなら行ってみたい (45票)

・その他

交通費が出る (30票)、応援グッズがもらえる (14票)、選手との関わりが持てる (14票)、中大出身著名人とのコラボイベント (13票) など

Q:愛校心を高める効果的な施策は？
(体育連盟無所属者の回答を抜粋)

1 位 施設面の満足度を高めること (108票)

2 位 中央大学のスポーツ部会やアスリートが活躍すること (90票)

3 位 中央大出身のアーティスト・芸能人等がメディアで活躍すること (70票)

・その他

偏差値を高めること (54票)、弁護士や公認会計士など、資格試験合格者数で他大より有名になること (27票)

Q:興味のある、応援したくなる部会は？ (複数回答可)
(体育連盟無所属者の回答を抜粋)

1 位 陸上競技部 (150票)

2 位 硬式野球部 (144票)

3 位 サッカー部 (120票)

・その他

バレーボール部 (97票)、バスケットボール部 (71票)、応援部 (56票)、水泳部 (39票)、女子陸上部 (33票) など

Q:大学スポーツに最も期待することは？ (体育連盟無所属者の回答を抜粋)

1 位 プロや代表選手の輩出 (161票)

2 位 大学のイメージアップ (141票)

3 位 メディア等での知名度向上 (39票)

・その他

観戦機会増加 (34票)、期待していない (28票)、
志願者数増加 (7票) など

調査結果より

体育連盟所属学生以外の学生をどのように取り込むかがキーポイント

→「応援会場や試合会場に足を運んでもらう」ハードルをいかに下げるか

注目部会が一定の部会に集中

→他部会も含めて 中大スポーツ全体が注目されることが理想

→注目度高い部会(陸上部、硬式野球部、サッカー部、バレー部、バスケット部) …観戦に
行きやすい条件を整える

→他部会…注目機会をまず設ける、増やすことで観戦へ繋げる

学生からの関心や注目度を上げる伸びしろがまだまだある

→学校を上げてより中大スポーツを盛り上げ、1つのブランドにすることが求められる。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2024年9月1日(日)

実施都市：長野県上田市

実施場所：菅平高原

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、合宿時の映像素材収集のため、合宿地にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年10月19日(土)

実施都市：東京都立川市

実施場所：昭和記念公園

実施内容：駅伝モチベーションビデオ制作素材の収集

成果：三大駅伝に向けた駅伝モチベーションビデオ制作のため、箱根駅伝予選会にて撮影を実施した。後のビデオ提供時に素材を盛り込むことができた。

(4) 青木 清隆 (経済学部・准教授)

FLP 演習 A

<テーマ>

日本における競技スポーツ文化を考える

<授業の概要>

現代社会においてスポーツ文化の中核を占める(セントラルスポーツ)「競技スポーツ文化」を、運営や経営(マネジメント)、メディア、指導体制・指導方法、ファンなどの多角的な視点から分析をし、主に日本の現状と問題点あるいは改革案などを考察していく。演習 A では、文献やインターネットを通じた分析を中心とする。

<活動内容>

青木ゼミはゼミ生が個人単位で研究活動を行うことに主眼を置いているため、2024 年度も以下のようなゼミ室での学習活動が中心であった。

[前期]

担当教員によるレクチャーと討論

- ①スポーツ発祥の経緯と、今日までのスポーツの変容や発展状況の概要について
- ②競技スポーツを中心とした各種スポーツ文化の成立・変容・現状の概要について
- ③日本におけるスポーツの発展状況、および競技スポーツ文化の特徴について
- ④日本における競技スポーツ文化の現状・問題点の概要について

ゼミ生の調査とプレゼンおよび討論

- ①ゼミ生が興味のある競技スポーツ種目を担当し、それぞれ発祥から競技化への略歴、日本への移入の経緯、日本での定着や発展の経緯、現状と問題点などについて、文献や Web での調査を行いプレゼンおよび討論を実施した。
- ②プレゼン後の討論や担当教員の講評を踏まえ、プレゼン内容の再構成・再調査・再分析を行い、その結果をレポートとして提出された。

[後期]

担当教員によるレクチャーと討論

- ①日本特有の運動部文化の功罪の概要について
- ②日本におけるスポーツビジネスの功罪の概要について
- ③日本の競技スポーツ種目におけるメジャー・マイナー化現象の概要について
- ④日本におけるプロスポーツの問題点と課題の概要について

演習 B 生による研究報告と担当教員の解説の聴講

- ①「首都圏に集中する J リーグクラブの生き残り戦略」について
- ②「日本における野球・サッカー以外のスポーツ種目のメジャー化を目指した規模拡大改革」について
- ③「高校野球における越境野球留学者を擁する私立高校圧倒的優位の現状分析と問題点」について
- ④「NPB の育成制度の現状と問題点」について

「提言書」作成に向けた個人研究の方向性の検討

- ①問題の所在、研究の方向性、テーマ(仮)、研究方法の検討および担当教員との懇談。
 - ②「提言書」に対する個人研究の第 1 回目の調査とプレゼン
- ※各ゼミ生の「提言書」作成に向けた研究テーマ(仮)は、以下のように決定した。
- ・ゼミ生 A:「日本におけるプロテニスプレーヤーの活動環境・生活環境の現状と課題」

- ・ゼミ生B:「日本のプロスポーツにおける女性ファンの拡大戦略」

F L P 演習 B

＜テーマ＞

日本における競技スポーツ文化を考える

＜授業の概要＞

演習 A からの学習テーマを継続し、「日本における競技スポーツ文化を考える」ことを内容とした授業を展開する。演習 A ではスポーツ文化に対する共通の基礎学習を中心に行ってきたが、演習 B ではゼミ生一人ひとりに競技スポーツ文化に関する学習課題を設定し、それぞれが文献調査やフィールドワークを通して学習を深めていくことが中心となる。調査した果実はプレゼンテーションにて報告することとし、ディスカッションを通してゼミ生全員が日本における競技スポーツ文化を広く学習することを目指していきたい。

＜活動内容＞

演習 A と同様に、演習 B も前期・後期通じてゼミ室での学習を中心に展開した。学習の内容は、以下に示した通り 2 年生の後半から進めてきた「提言書」作成のための個人研究活動と、日本における競技スポーツ文化の基礎学習を実施した。

担当教員によるレクチャーと討論

- ①日本の競技スポーツにおける部活動制度の影響について
- ②日本におけるプロスポーツの経営戦略の概要について
- ③日本におけるプロスポーツのファン獲得・観客動員数拡大戦略の概要について
- ④日本におけるプロスポーツにおけるスポンサーの影響力について
- ⑤日本におけるプロスポーツにおけるメディアの影響力について
- ⑥日本の競技スポーツにおけるジェンダー・多様性への対応の現状について

「提言書」作成に向けた個人研究

- ①調査・分析できた内容を定期的にプレゼン
→研究の方向性の再確認、調査範囲・内容の再確認、分析の視点の再確認
 - ②先行研究の調査・収集・読み込みと、研究の背景に関する論理形成学習
 - ③目次を始め論文構成に関する学習
- ※各ゼミ生の「提言書」作成に向けた研究テーマは、以下のとおりである。
- ・ゼミ生 C：「横浜 FC をモデルとした首都圏に集中する J リーグクラブの生き残り戦略」
 - ・ゼミ生 D：「バドミントンをモデルとした日本におけるスポーツ種目の競技人口の増大と見るスポーツの規模拡大戦略」
 - ・ゼミ生 E：「高校野球における越境野球留学者の現状とその功罪 ～2000 年以降の甲子園出場校の状況を中心として～」
 - ・ゼミ生 F：「NPB における育成契約制度と各球団の育成戦略の現状と課題」

専門家によるレクチャーの聴講

演習 B 生は、担当教員が開講する経済学部での演習の授業で企画された専門家による以下のレクチャーを、ゲストとしてオンライン聴講した。

- ①実 施 日：2024 年 11 月 15 日（金）
担 当 者：田口 耕二 氏（日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング指導士）
演 題：日本におけるスポーツメンタルトレーニングの歴史・現状・指導内容
実施内容/成果：20 年以上・1000 か所以上での指導経歴を有し、現在阪神タイガースや MLB の 5 球団の指導に携わられている田口氏から、メンタルトレーニングに必要な各種理論を紹介していただき、メンタルトレーニングの重要

性や奥深さを理解することができた。また歴史や現状の話から、日本は海外のスポーツ大国よりメンタルトレーニングの普及が遅れていること、国内で統一されたメンタルトレーニング指導士の組織が存在しないこと、メンタルトレーニング指導士だけでは生計を立てることが難しいことなどの問題点も理解できた。競技スポーツやアスリートを支えるさまざまなスタッフの社会的な身分と生活が不安定である日本特有の競技スポーツ文化の一面を学習できた。

②実 施 日 : 2024 年 11 月 21 日 (木)

担 当 者 : 中村 英仁 氏 (一橋大学経営管理研究科 准教授)

演 題 : 日本におけるプロスポーツビジネスの現状と問題点

実施内容/成果 : スポーツマネジメントや企業スポーツに関する研究を専門とされている中村氏から、海外のプロスポーツ経営との比較を通して J リーグ・NPB・B リーグを中心とした日本のプロスポーツ経営の概要と特徴について詳しく説明いただいた。

また、現状における日本のプロスポーツ経営の問題点あるいは限界点の提示と、経営規模の拡大と健全かつ安定的な経営を目指した今後の取り組みの方向性に対する具体的な私見を紹介していただいた。

ゼミ生の「提言書」作成に向けた個人研究を深めるうえで、極めて有効な知識を享受できたし、マネジメント系以外の研究をしているゼミ生においても、日本の競技スポーツ文化の一面を知ることができた貴重な学習の場であった。

（５）市場 俊之（商学部・教授）

FLP演習A

<テーマ>

スポーツを「みる」

<授業の概要>

スポーツを「みる」の「みる」には、「見・観・鑑・診・看」などを当てはめることができる。スポーツを多彩に、多角的に、かつ階層的に取り扱う。2つのテーマを想定している。ひとつは、「オリンピックとパラリンピック」、「ワールドカップ（サッカー）」などの大きなスポーツ・イベントを「みる」である。歴史的な背景を把握し、眼前のイベントの様態を考察する。中央大学とオリ・パラほかとの関りも調査・検討する。もうひとつは、スポーツ活動に不可欠な「人間の運動」を「みる」である。人間とはどんな存在なのかから始める。人間の運動とは何か、動きを教える・学ぶ・伝承することを俎上に乗せる。例えば、我々がスポーツや身体活動を行い、その体験・経験がどんな機能ないしは意味を有するのかなどについて考える。

<活動内容>

2024年夏はオリンピック・パリ大会だった。そこで、社会・政治状況との関係性、女性の競技・種目の増大などの視点からオリンピックの歴史を振り返った。同時に中央大学とオリンピックの関係にも注目した。そこでは、1924年パリ大会陸上競技に参加した「中央大学オリンピックアン第1号 田代菊之助」をとり挙げた。

人間の運動については、現象学的な論文を講読した。自然科学的なエビデンスとは一線を画し感覚または体感を基底にする身体性を考察した。

(6) 潮 清孝 (商学部・教授)

FLP演習A・B・C

<テーマ>

剣道を通じたビジネスおよび海外文化の理解

<授業の概要>

剣道を通じて日本文化の海外普及や海外でのビジネスの最前線において活躍されている個人や組織の方をオンラインで定期的にゲストにお招きし、お話を伺う。

マイナー競技ならではの仲間意識を入り口とすることで、他者と異なるコミュニケーションを図ることが期待される。また、当該競技の中で得られる知識や経験を、どのようにビジネスなどの分野で生かすことができるか、といった点などについても、ゲストなどの体験談を通じて学習する。

なお、商学部課題演習「マイナー競技（主に剣道）を通じたビジネスおよび海外文化の理解」と連携して授業を実施する。

<活動内容>

剣道を通じた事業活動や文化普及に取り組んでいる方々を招きお話を伺った。また、前年度に引き続き、タイ・バンコクにおける剣道交流・普及活動を実施するなど、特に剣道経験のある受講者にとっては、自分の特技を生かして国際貢献できる貴重な機会となった。剣道未経験者の受講者にとっても、剣道を入り口として多様な事業、文化交流、社会貢献を行っている方々と直に接し、お話を伺うことができた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2024年5月13日(月)

講演者：中村 はぎ乃 氏（独立行政法人国際協力機構（JICA））

演 題：剣道を通じた国際交流：青年海外協力隊の活動を通じて

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5506 教室

実施内容：JICA 職員としての活動に加え、中村様ご自身のパナマでの派遣隊員としての経験などについてご講演頂いた。

成 果：JICA 職員としての立場に加えて、中村様ご自身の派遣隊員としての活動内容およびそれらを踏まえた国際貢献についての考え方など、様々な観点から示唆を得る事ができた。特に発展途上国での政治・経済情勢を踏まえ、日本あるいは日本人としてどのような貢献ができるのかなど、少人数ならではの深い議論を行うことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年6月3日(月)

講演者：工藤 優介 氏（株式会社 BUSHIZO）

演 題：BUSHIZO 立ち上げの経緯とビジネスとしての剣道界

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5506 教室

実施内容：ネット販売を中心とした剣道具販売事業の立ち上げ経緯や剣道業界ならではの事業の醍醐味・困難さなどについてお話を伺った。

成 果：BUSHIZO 立ち上げの経緯、事業に対する熱意およびそのために必要な能力などについて具体的にお話を伺うことができた。剣道具の販売以外にも既存の枠組みを超えた剣道業界の取り組みなどについても近年挑戦されており、そのような取り組みを行う意義やご本人の熱意などについても、ディスカッションを通じて知ることができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年6月24日(月)

講演者：武 京花 氏 (株式会社 BUSHIZO)

演 題：剣道における伝統と Z 世代文化の融合

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5506 教室

実施内容：工藤様の講演を受けた上で、同じ BUSHIZO ブランドで金沢にて剣道具販売を行っている彩土館店における現状や、武様が中心に取り組んでいる SNS などを用いた様々な活動についてお話を伺った。

成 果：近年、特に若い世代を中心に剣道人口の減少が進んでいる。そのような中で SNS などを活用しながら Z 世代に対する剣道文化の発信を行っている社会的意義や難しさなどについて活発にディスカッションを行うことができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年10月7日(月)

講演者：白木 滋里 氏 (合資会社白木恒助商店)

演 題：古酒造りと剣道をつうじた日本文化の継承と普及

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5506 教室

実施内容：代々伝わる酒蔵の経営に加えて、剣道による地域社会への貢献、交流についてお話を伺った。

成 果：近年若者のお酒離れ、特に日本酒離れが進んでいる中で、日本酒の伝統と現代の文化の融合を図るための工夫、さらには伝統と革新の融合についての考え方や実践例について詳しく理解することができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年10月21日(月)

講演者：滝沢 憲弘 氏 (任意団体 Hagakurey)

演 題：剣道ライト層の活性化と具体策

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 5506 教室

実施内容：いわゆる社会人サークルとして近年登録者数が急速に増加している Hagakurey の活動趣旨や活動内容についてご講演頂いた。

成 果：剣道人口の減少が叫ばれるなか、大学卒業後の 20 代 30 代の方々が気軽に剣道を続けられる機会を作る意義などについて、深くディスカッションを行うことができた。剣道独自の文化を守りつつも、多くの人たちが気軽に剣道を続けられることの重要性を理解することができた。

対象演習：A・C

実施日：2024年12月5日(木)～2024年12月9日(月)

実施都市：バンコク (タイ)

実施場所：Suan Sunandha Rajabhat University・他

実施内容：タイ・バンコクを訪問し、現地道場の訪問や剣道交流大会への参加、現地剣道家との交流などを行った。

成 果：参加者全員が剣道上級者だったこともあり、現地の方々の日本文化や剣道に対する憧れ、熱心さを肌で感じる事ができた。受講者は競技として剣道に接する機会が多かったが、剣道を通じた文化交流の面白さ、また難しさを知ることで、剣道に対する新たな見識が広がった。

(7) 阿部 太輔 (理工学部・助教)

FLP演習C

<テーマ>

パフォーマンスの測定・分析

<授業の概要>

履修学生が各々興味を持つスポーツを中心に、文献をもちいてどのような研究が行われているのかを理解し、実験や分析の方法について知識を深める。

実際に研究計画を作成から、正しい実験方法や分析方法を用いてデータを収集し、プレゼンテーションおよび論文・研究報告としてまとめることができるようになる。

<活動内容>

当ゼミは、学生それぞれの興味をもったスポーツ種目あるいはスポーツに関わる疑問について、効果を上げるアプローチや問題点に対する調査をおこなうことで、競技スポーツの競技力向上、健康・生涯スポーツに対する有用なデータの収集を目的として実験研究をおこなった。

A・B演習にて、スポーツにおけるエネルギー回路等の基礎的な知識の獲得や、これまでに取り組まれているバイオメカニクスや運動生理学における論文を題材に研究の基礎から知識を持ち、C演習では、自身がおこなったテーマに対する実験結果についてデータの有用性を明らかにし、論文作成を主として取り組んだ。

・個別に取り組んだ内容

「大学生のサプリメントに対する正しい認識と教育効果の検証」

テクノロジーの進化や多様化、新型コロナウイルスの影響等から人々の健康意識は高まっていることに伴い、現在は様々なヘルスクエアを受けられるようになっているが、それに併せて情報リテラシーの向上も求められている。

健康に対する関心の高まりにより、サプリメントの使用が一般化されつつある傾向にあり、食事だけでは補えない栄養素を補充する手段として広く利用され、特に若年層を中心にその需要は拡大にある。

その一方で、サプリメントの誤用や過剰摂取に伴う健康被害が報告されており、正しい知識と使用方法を持たない利用者が多いことが問題視されている。

このような背景から、大学生を対象とし、サプリメントをどのように活用しているのか、摂取状況、摂取しているサプリメントへの理解度、ドーピングへの理解度等、複数項目について同様のアンケート調査を2回実施し、理解度に対する傾向を明らかにするとともに、生涯スポーツとして、より健康的にスポーツを継続するためにサプリメントがどのように有効活用できるのかを検討するためのデータとして分析をした。

結果、アンケート調査によってサプリメントの基本的な位置付けや効能表示に関する理解度の向上が顕著にみられ、教育的介入の側面からの効果がみられた。

「男子大学生競泳選手におけるジャンプ力がスタート局面に及ぼす影響について」

競技スポーツにおける技術や記録の向上には、身体能力が大きく影響を与えており、アスリートは自身の能力を目指し日々のトレーニングをおこなっている。

競技力を向上させる身体要因には、パワー、スピード、アジリティ、持久力、バランス、柔軟性など基礎能力を含めた様々な身体能力が重要とされる。

競泳における身体能力に対する先行研究も数多く存在しているが、水中競技という特性からジャンプ力に対する知見は多くはない。しかしながら、スタート局面での飛び込み、ターン局面での壁を蹴る動作等、脚力が影響を及ぼすことが想定できる局面が存在している。そこで、ジャンプ力とスタート動作にどのような関係があるのかに着目し、分析をおこなった。

結果、スタート局面の測定タイムとジャンプ力には有意な相関がみられ、脚力へのトレーニングでのアプローチが競泳の競技力向上に影響を与える要因であることが示唆された。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：C

実施日：2024年12月16日(月)

実施都市：東京都多摩市

実施場所：国士舘大学 多摩キャンパス

実施内容：バイオメカニクス研究室の見学

成果：ゼミ生自身が取り組んできた研究とは別の分野における機材、実験方法、分析方法等について詳細なレクチャーを頂くことができた。

スポーツに対して、スポーツサイエンスがどのような関わり方、役割を担っているのか、専門的に取り組んでいる研究室を見学することができ、自身の研究に対しても、より深掘りした疑問を持つことができるようになり、また、人間のパフォーマンスに対する研究の楽しさをさらに実感してもらえる機会となった。

(8) 向山 昌利 (文学部・准教授)

FLP 演習 A

<テーマ>

スポーツを通じた国際協力の理論と実践

<授業の概要>

「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、あらゆる領域からの貢献が求められており、スポーツも例外ではありません。実はそうしたスポーツを活用してより良い社会を創出しようという試みは、SDGs が策定される 10 年以上も前となる 2000 年頃から「開発と平和のためのスポーツ (SDP: Sport for Development and Peace)」として推進されています。

そこで本演習では、これまで積み重ねられてきた SDP プログラムの可能性や限界に迫るために、先行研究をレビューしつつ、SDP プログラムを展開する「非政府組織 (NGO: Non-governmental Organization)」スタッフによる講義や他大学とのディスカッションなどを実施していきます。また、実際に東南アジアで展開されるプログラムを現地で調査する機会や、習得した知識を実践に結びつけるアクションラーニングの機会を日本に拠点を置く NGO と連携しながら作ります。

<活動内容>

向山ゼミは、今年度は主に①ラオスについての事前学習、②日本での研修、③ラオス・タイでの現地研修を行った。

まず、①ラオスについての事前学習ではラオスの国勢調査や「Education and sports sector development plan 2021-2025」などをレビューし、ラオスの基礎情報や現状について理解した。加えて、独立行政法人国際協力機構 (JICA) やアジアの障害者活動を支援する会 (ADDP) の役割と取り組みについても調べ、ラオス・タイでの現地研修で調査すべき内容を整理した。

②日本での研修では、代々木公園で行われたラオスフェスティバルに参加し、実際にラオスの文化や食に触れた。また、ラオスの現状を広く理解するために JICA 本部を訪問しレクチャーを受けた。スポーツ面では、ADDP 主催のユニバーサルスポーツイベントに参加し、国籍、性別、年齢、障害の有無など関係なく、初対面の人同士をつなげる力をスポーツが持つことを、経験を通じて理解した。

③ラオス・タイでの現地研修では JICA ラオス事務所、タイ事務所を訪問し日本からの具体的支援、両国の歴史や関係についてのレクチャーを受けた。また、タイ大林の訪問や、タイ在住の方々との会食を通じて、海外でキャリアを築く大きな可能性について知ることができた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習 : A

実施日 : 2024 年 9 月 1 日 (日) ~ 2024 年 9 月 8 日 (日)

実施都市 : ビエンチャン (ラオス) ・ バンコク (タイ)

実施場所 : 独立行政法人国際協力機構 (JICA) ラオス事務所、タイ事務所・他

実施内容 : ラオスとタイ、それぞれで JICA 事務所を訪問し、JICA の活動や各国の現状についてレクチャーを受けた。また、ラオス事務所では JICA 海外協力隊員として活動中の菊地友輝氏からもレクチャーをしていただき、実際にラオスにてスポーツの普及活動をされている方の視点からスポーツを通じた国際協力についてお話しいただいた。

成果 : ラオス事務所では、ラオスと日本のかかわりの歴史から、現在行っている具体的支援まで幅広く理解することができた。また、実際に JICA 海外協力隊として活動されている方のお話を聞くことで、現地でのスポーツの現状や現地の人の考え方

の特徴など、現地で聞くことでしか分からない貴重な学びを得ることができた。タイ事務所では、ラオスと比較しながらタイにおける発展の現状やスポーツの普及の実態について聞くことができた。複数の国を比較することで、国や地域による日本からの具体的支援の違いや、スポーツに関する環境の異なりを知ることができた。

対象演習：A

実施日：2024年9月2日(月)

講演者：新井 貴久氏 (ADPP)

演題：国際協力における障害者スポーツ支援の可能性

実施都市：ビエンチャン（ラオス）

実施施設：Minna no Cafe

実施内容：ADDP へ訪問し、団体概要やプロジェクトのヒアリングを行った。また、ADDP 所属の方々と一緒にユニバーサルスポーツ(卓球バレー)の体験をしたり、車いすバスケットボールの練習等を見学した。加えて、パワーリフティング選手の練習場兼自宅へ訪問し、練習環境を視察した。

成果：ADDP の会長である前島富子氏の実体験や、ADDP が現在行っている支援の実例をお聞きし、インターネットでは得ることのできない貴重な知見を得ることができた。また、実際に ADPP で労働をしながらスポーツも行っている方の生の声を聞くことができたり、スポーツをやっている場面を見ることができたりと、現地でしかできないことを経験し、ラオスのスポーツ環境の現状や課題点をより深く理解することができた。なおパラスポーツでは互いの言語が全くわからない中、身振り手振りで会話し、スポーツを一緒に楽しむということを経験することもできた。



(9) 小林 勉 (総合政策学部・教授)

FLP 演習 A

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

J リーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結び付けられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

FLP 小林ゼミ演習 A では、①津山市に向けた政策提言、②J リーグクラブとの連携イベントの運営サポート、③J リーグクラブとの連携プロジェクトの運営サポートを行った。

まず、①「津山市に向けた政策提言」では、8 月に訪れた岡山県津山市において、どのような現状か、何が課題かを津山市役所へのヒアリング調査や現地でのフィールドワークによって明らかにし、そこで得た情報から「シティプロモーションを用いた観光政策」をテーマに、経済活動活性化を促す政策提言を行った。

次に、②「J リーグクラブとの連携イベントの運営サポート」では、6 月に行われた明治安田秋田支社ポートボールサッカー教室の運営補助を行った。このイベントは明治安田秋田支社とブラウブリッツ秋田の提携によるものである。秋田の皆様の毎日に、「スポーツを通じてちょっとした福をプラスしたい」という想いのもと、「元気な街、秋田」の構築を目指してこのような企画の実施に至った。

③「J リーグクラブとの連携プロジェクトの運営サポート」では、J リーグクラブのブラウブリッツ秋田と本ゼミが 11 年間にわたって実施してきた共同プロジェクトであり、8 月のホームゲーム 1 試合のプロデュースを行った。プロジェクトの内容は、ポートボールサッカー大会開催、モザイクアートの作成、ハーフタイムイベント、ジャーナル作成、福+T シャツ作成等である。演習 A では、それらのコンテンツの運営サポートを行った。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2024 年 6 月 26 日(水)～2024 年 7 月 3 日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：J リーグクラブのブラウブリッツ秋田と連携し、試合前に開催された明治安田秋田支社プレゼンツ「多世代交流サッカー教室」の運営サポートを行った。

成果：秋田市やスタジアムの雰囲気を実際に感じることができ、老若男女問わずブラウブリッツ秋田のファン・サポーターや選手と触れ合うことができる貴重な機会となった。

対象演習：A・B

実施日：2024 年 7 月 27 日(土)～2024 年 7 月 28 日(日)

実施都市：静岡県賀茂郡

実施場所：NPO 法人あおぞらビレッジ

実施内容：静岡県賀茂郡河津町にて開催された NP0 法人あおぞらビレッジによるあおぞらキャンプの場において、ハーフタイムイベントにて実施予定のダンボールリレーのトライアルを行った。

成 果：子どもたちを対象にトライアルを実施できたことで、ルールの特明確さやゲームの難易度、参加者の実際の反応を確認することができた。それらの問題点が浮き彫りになったことで、今年度を実施予定の新たなコンテンツに対して多くの課題を整理することができた。

対象演習：A・B・C

実 施 日：2024 年 8 月 22 日(木)～2024 年 8 月 27 日(火)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：J リーグクラブのブラウブリッツ秋田と連携し、ホームゲームのプロデュースを行った。具体的には、年齢や性別を問わず参加可能な「ポートボールサッカー体験会」の運営支援や企画補助、複数の「福+ブース」の運営補助、スタジアム来訪者へ渡す「ジャーナル」、「クリアファイル」の配布などを行った。

成 果：実際の J リーグクラブと連携し、プロサッカーリーグの公式戦をプロデュースする支援をすることで、1 つの公式戦が運営されるのに必要な要素がいかに多いのかを感じることができた。プロジェクトを通して、ファン・サポーターや選手、クラブスタッフの方々と関わることで、スポーツを通じた地域貢献の可能性を見いだすことができ、来年度のプロジェクトに向けて貴重な機会となった。

対象演習：A・B・C

実 施 日：2024 年 12 月 19 日(木)

講 演 者：前山 恭平 氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演 題：J1 昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：学生が 3 つのグループに分かれ、次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画についてパワーポイントを用いて発表し、前山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成 果：福+プロジェクトで実施して完結するのではなく、長期間、継続的に企画を開催する仕組みを考えてほしいというフィードバックをいただき、新たな視点を得ることができた。また、大学生である我々がプロジェクトを運営する意味について立ち返るきっかけを得ることができた。

対象演習：A・B・C

実 施 日：2024 年 12 月 19 日(木)

講 演 者：外山 新平 氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演 題：J1 昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：学生が 3 つのグループに分かれ、次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画についてパワーポイントを用いて発表し、外山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成 果：「自分たちが全てを運営しようとするのではなく、ブラウブリッツ秋田をプラットフォームに、いろいろな方やいろいろな企業に協力してもらう」ことを考慮するようフィードバックをいただき、視野を広げることができた。

対象演習：A・B・C

実 施 日：2024 年 12 月 19 日(木)

講 演 者：石田 万梨奈 氏 (onozucolor)

演 題：J1 昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：学生たちが次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画を発表し、石田氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。また、秋田県五城目町の街おこし協力隊での実務経験をもとに、地域を盛り上げる活動において重要なことをご教授いただいた。

成 果：街おこしにおいて、どうしたら自分たちの考えを理解してもらえるか、賛成を得ることができるかにとらわれるのではなく、住民の話を聞き、住民の想い、すなわち「WILL」や「CAN」を引き出すことこそが重要なのだと、福+プロジェクトにおいても大切な心構えを学ぶことができた。

対象演習：A

実 施 日：2025 年 2 月 19 日(水)～2025 年 2 月 21 日(金)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：秋田市役所

実施内容：2025 年度に実施する J リーグクラブとの連携プロジェクトに関する打ち合わせ

成 果：J リーグクラブ側との打ち合わせを通じて、2025 年度の連携プロジェクトでは、「アウエイツーリズムをテーマに、観光 DX の推進に寄与すること」を共通目標とする方向性が確認された。具体的には、アウェイ来訪者の行動データや満足度の可視化、滞在価値向上に資する仕組みづくりを学生チームが主体となって企画・実施する方針で合意が形成された。5 月中に中間提案を行い、クラブ側からは地域事業者や観光団体との連携支援が得られる見通しである。

FLP演習B

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

Jリーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結び付けられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

FLP 小林ゼミ演習 B は、Jリーグクラブとの共同プロジェクトである「福+プロジェクト」の企画運営を中心に、以下のような活動を行った。

1. みてファン！

高齢者施設や保育園を訪問し、「観る」という観点からスポーツを楽しんでもらう企画を行った。ブラウブリッツ秋田を幅広い世代の方々に知ってもらうとともに、スポーツを観戦することの楽しさ、応援することの喜びを知っていただくことができた。

2. 防災ビンゴ

昨今頻発する自然災害に対する対応する力をつけること、加えて防災に対するポジティブなイメージを持つことを目的とした企画を行った。日常生活の中で見かける防災に役立つ道具などに触れることで、防災についての知識を学び、災害に備えるきっかけを与えることができた。

3. ポートボールサッカー

ゼミ生が独自で考案した、走らないサッカーであるウォーキングサッカーとポートボールのルールを融合させた「ポートボールサッカー」という新しいスポーツを通じて、多世代間のコミュニケーション創出を図る企画を行った。老若男女問わず、参加者同士のコミュニケーションを創出することができた。

4. モザイクアート

スポーツを「観る」だけでなくスポーツ観戦の魅力を発信することを目的とし、ファン・サポーターから写真を集め、モザイクアートを作成する企画を行った。写真を台紙に貼る作業をファン・サポーターの方にも協力していただき、クラブ創設 15 周年記念試合で展示した。これらの活動を通じ、福+プロジェクトの認知度向上に繋げることができた。

5. ハーフタイムイベント

ブラウブリッツ秋田のホームゲームの試合中やハーフタイムに、ブラウブリッツ秋田と愛媛 FC のマスコットキャラクターとともに小学生とその保護者がリレー形式のゲームをする企画を行った。ピッチサイドでの試合観戦も含め、夏休み最後の思い出を作る機会を創出することができた。

6. ジャーナル／クリアファイル配布

皆様に日常から「福＋プロジェクト」を感じていただきたいという想いから作成した福＋プロジェクトオリジナルクリアファイルとブラウブリッツ秋田所属選手のインタビューを掲載したジャーナルを入場ゲートにて配布した。試合前に観客席にてジャーナルを読んでいる方や後日クリアファイルを使用している方を見かけることがあり、作成した意義を感じることができた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：B

実施日：2024年6月6日(木)～2024年6月8日(土)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：明治安田生命 秋田支社・他

実施内容：6月30日実施の明治安田秋田支社プレゼンツ「多世代交流サッカー教室」を行うにあたり、明治安田秋田支社へご挨拶を行った。また、中央大学学会会秋田県支部定期総会へ参加することで福＋プロジェクトの認知度を広める活動を行った。

成果：明治安田秋田支社へ訪問し、企画説明をはじめとした企画実施に向けてのコミュニケーションを図り、イベントを行うスタジアムの雰囲気や活動を行うスタッフの様子を肌で感じる事ができた。中央大学学会会秋田県支部定期総会では、福＋プロジェクトの認知度を広め、激励の言葉を受けた。

対象演習：A・B

実施日：2024年6月26日(水)～2024年7月3日(水)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田のホームゲームの前座として、明治安田秋田支社プレゼンツ「多世代交流サッカー教室」の運営を行った。またプロジェクト実施にあたり、関係機関に対して挨拶およびスポンサーシップ広報活動を行った(主に中央大学学会会秋田県支部定期総会の方々)。

成果：多世代交流サッカー教室では、子どもから高齢者までの老若男女が参加し、多くのコミュニケーションと笑顔を生み出すことができた。また、関係機関に挨拶し、プロジェクトへの協賛を得ることができた。

対象演習：B

実施日：2024年7月17日(水)～2024年7月21日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田・他

実施内容：秋田県内のテレビ局への取材依頼とともに、福＋プロジェクトの企画説明を行った。

成果：プロジェクト認知度向上のため、学生自らテレビ取材を依頼したことで、防災ビンゴや福＋プロジェクト当日の模様を地元テレビ局に取り上げられ、それらへの対応を通じてメディア対応のスキルを向上させることができた。

対象演習：B

実施日：2024年7月22日(月)～2024年7月25日(木)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：さらさ秋田駅前・他

実施内容：みてファン！秋田県内施設訪問、事務所での準備等を行った。

成果：みてファン！企画に協力している各施設を訪問し、応援グッズ作成や試合応援を行ったことで、入居者の方々、スタッフの方々と交流をすることができた。また、

その様子を地元テレビに取り上げてもらい、本プロジェクトの広報活動を行うことができた。

対象演習：A・B

実施日：2024年7月27日(土)～2024年7月28日(日)

実施都市：静岡県賀茂郡

実施場所：NPO 法人あおぞらビレッジ

実施内容：静岡県賀茂郡河津町にて開催された NPO 法人あおぞらビレッジによるあおぞらキャンプの場において、ハーフタイムイベントにて実施予定のダンボールリレーのトライアルを行った。

成果：子どもたちを対象にトライアルを実施できたことで、ルール of 明確さやゲームの難易度、参加者の実際の反応を確認することができた。それらの問題点が浮き彫りになったことで、今年度 to 実施予定の新たなコンテンツに対して多くの課題を整理することができた。

対象演習：B

実施日：2024年8月9日(金)～2024年8月13日(火)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田と連携し、昨今頻発する自然災害に対する対応する力をつけること、加えて防災に対するポジティブなイメージを持つことを目的とした企画をソユースタジアム周辺にて実施した。

成果：日常生活の中で見かける防災に役立つ道具などに触れることで、防災についての知識を学び、災害に備えるきっかけを与えることができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年8月22日(木)～2024年8月27日(火)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：ソユースタジアムやブラウブリッツ秋田事務所にて、ブラウブリッツ秋田のクラブスタッフの方や A 生～C 生が協働し、プロジェクト当日に向けた最終準備、プロジェクトの運営を行った。

成果：プロジェクト当日まで約1年間進めてきた企画を実施し、ファン・サポーターの方々や秋田の方々にプロジェクトの目標である「笑顔と福」を届けることができたとともに、スポーツを通じた地域活性化の可能性を多角的に追及することができた。

対象演習：B

実施日：2024年9月12日(木)～2024年9月15日(日)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：福+プロジェクトの活動の意義やこれまでの歩みを伝える機会として、ソユースタジアムにて、ブラウブリッツ秋田クラブ創設15周年を記念した、モザイクアートや福+プロジェクトの様子をまとめた写真を展示した。

成果：モザイクアートの制作に携わったファン・サポーターの方々が作品をじっくりと鑑賞し、写真を撮る姿が見られたほか、福+プロジェクトに関心を持ち、活動について質問をする来場者も多く見受けられた。これにより、次年度の活動へと繋がる貴重な機会となった。

対象演習：B

実施日：2024年10月15日(火)～2024年10月18日(金)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：株式会社ブラウブリッツ秋田・他

実施内容：ブラウブリッツ秋田事務所にて、福+プロジェクトを支援してくれた関係者らに対して、プロジェクト全体を通じた報告会を実施し、今年度の活動を総括した。

成果：支援者、クラブスタッフらに福+プロジェクトの全体報告をすることで、今年度の活動を総括することができ、次年度への課題を整理することができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：前山 恭平氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画について発表し、前山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成果：次年度の福+プロジェクトの構想を知るとともに、学生がこのプロジェクトに取り組む意義を再認識する機会となった。また、長期間にわたり継続的に企画を実施できる仕組みについて検討し、より良いプロジェクトとなるようなサポート体制の基盤を形成できた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：外山 新平氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画について発表し、外山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成果：次年度の福+プロジェクトの構想を踏まえ「自分たちだけで運営するのではなくブラウブリッツ秋田をプラットフォームに多様な企業や個人と協力する」視点の重要性についてフィードバックを受け、視野を広げる機会となった。今後も、この考えを踏まえながら、より良いプロジェクトとなるようなサポート体制の基盤を形成できた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：石田 万梨奈氏(onozucolor)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：学生たちが次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画を発表し、石田氏から

フィードバックを受けた。また、秋田県五城目町の街おこし協力隊での実務経験をもとに、地域活性化の取り組みにおいて重要なポイントについてご教授いただいた。

成 果：街おこしにおいては、自分たちの考えを理解してもらうことや賛同を得ることに重点を置くのではなく、住民の声に耳を傾け、住民の想い、すなわち「WILL」や「CAN」を引き出すことが重要であると学んだ。この考え方は、福+プロジェクトにおいても欠かせない視点であり、今後の活動に生かしていくべき大切な心構えとなった。

FLP演習C

<テーマ>

スポーツによる地域活性化の可能性に関する研究

<授業の概要>

Jリーグのホームタウンの事例にみられるように、スポーツによって地域が大きな盛り上がりを見せるなど、近年、「地域」と「スポーツ」が結び付けられて論じられることが多くなっています。こうした捉えられ方はいつ頃から、どのような経緯の中でなされてきたのでしょうか。本授業ではそうした経緯について理解を深めながら、スポーツによる地域活性化の可能性について検討していきます。それと同時に、「スポーツの素晴らしさ」だけを焦点化するのではなく、地域活性化にスポーツを結びつけて考えようとする際の様々な課題についても検証します。

地域で展開されるスポーツの実情を踏まえながら、「地域とスポーツ」の関係について多角的な観点から検討できるようになることが、本授業の大きな目標です。

<活動内容>

小林ゼミ演習Cでは、演習A・Bで展開されるJリーグクラブとの連携プロジェクトの準備・運営サポートを行った。Jリーグクラブとの連携プロジェクトは、ブラウブリッツ秋田と本ゼミが11年間にわたり実施してきた共同プロジェクトである。プロジェクトに先立って行われた「多世代交流サッカー教室」および、演習Bを中心に企画立案されたプロジェクト当日の5つのコンテンツに対して、準備段階から実施当日の運営に至るまでの協力支援活動を行った。プロジェクト10周年の節目を迎えた昨年度の経験をもとに、同様の企画を実施した際の学びを活かしながら、現地のプロジェクト支援者との連携や実際のイベント運営などについて後輩ゼミ生らのサポートをすることで、今年度のプロジェクト実施を支援した。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2024年8月22日(木)～2024年8月27日(火)

実施都市：秋田県秋田市

実施場所：ソユースタジアム・他

実施内容：Jリーグクラブのブラウブリッツ秋田と連携し、ホームゲームのプロデュースを行った。具体的には、年齢や性別を問わず参加可能な「ポートボールサッカー体験会」の運営支援や企画補助、複数の「福+ブース」の運営補助、スタジアム来訪者へ渡す「ジャーナル」、「クリアファイル」の配布などを行った。

成果：学生では経験できないようなプロスポーツの試合運営を実際に経験することで、マネジメントの難しさを感じるだけでなく、企画力や実行力を身に付けることができた。また、スポーツを通じた社会貢献活動の可能性について検討することができた。

対象演習：C

実施日：2024年8月28日(水)～2024年9月8日(日)

実施都市：バンコク(タイ)・ビエンチャン(ラオス)

実施場所：独立行政法人国際協力機構(JICA) LAOS OFFICE・他

実施内容：バンコク(タイ)、ビエンチャン(ラオス)にて、JICAタイ、JICAラオス、アジアの障害者を支援する会、他への現地調査。

成果：本調査を通して専門家や活動を行っている団体、プログラムに関わるステークホルダーの声を聞き、国外とりわけ東南アジア地域におけるスポーツを通じた社会開発の現状を理解するための一助となった。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：前山 恭平氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画について発表し、前山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成果：次年度の福+プロジェクトの構想を知るとともに、学生がこのプロジェクトに取り組む意義を再認識する機会となった。また、長期間にわたり継続的に企画を実施できる仕組みについてA生とともに検討し、より良いプロジェクトとなるようなサポート体制の基盤を形成できた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：外山 新平氏(株式会社ブラウブリッツ秋田)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画について発表し、外山氏から企画に対してのフィードバックをいただいた。なお、学生はそれぞれ「子どもおよび高齢者を対象にした企画」、「ライト層を対象にした企画およびスタジアムにおいて滞在時間を伸張させるための企画」、「アウェイツーリズム」をテーマに据えて企画を考えた。

成果：次年度の福+プロジェクトの構想を踏まえ「自分たちだけで運営するのではなくブラウブリッツ秋田をプラットフォームに多様な企業や個人と協力する」視点の重要性についてフィードバックを受け、視野を広げる機会となった。今後も、この考えを踏まえながら、より良いプロジェクトとなるようなサポート体制の基盤を形成できた。

対象演習：A・B・C

実施日：2024年12月19日(木)

講演者：石田 万梨奈氏(onozucolor)

演題：J1昇格へ向けクラブが抱える課題：新スタジアム建設へ向けた全体構想との関連から

実施施設：中央大学 多摩キャンパス 11516 教室

実施内容：学生たちが次年度の福+プロジェクトに向けて考えた企画を発表し、石田氏からフィードバックを受けた。また、秋田県五城目町の街おこし協力隊での実務経験をもとに、地域活性化の取り組みにおいて重要なポイントについてご教授いただいた。

成果：街おこしにおいては、自分たちの考えを理解してもらうことや賛同を得ることに重点を置くのではなく、住民の声に耳を傾け、住民の想い、すなわち「WILL」や「CAN」を引き出すことが重要であると学んだ。この考え方は、福+プロジェクトにおいても欠かせない視点であり、今後の活動に生かしていくべき大切な心構えを構築できた。